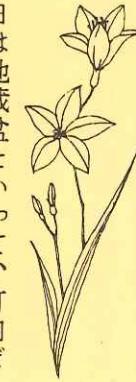


勝林寺
土

地藏盆



毎年八月二三日は地藏盆といって、町内どの区でもお地藏様をお祭りして、子供を中心としたいろいろな行事をします。それぞれの区の婦人会が万般のお世話をする訳ですが、わたしは幼いときに亡くなつた父の命日に当たるものですから、とくに思いを込めてご奉仕させていただいております。

わたしの区では真宗のお寺のご門を借りて勤めますので、そこの寺のご住職がお経やら一口のお説教やら、丁寧に勤めてくださいます。毎年のことでのお地藏菩薩さまの話は粗方心得ております。

地藏菩薩本願經というのに書いてあること。お釈迦様が亡くなつて、次の仏様弥勒菩薩が出てこられるまで、この世の泥に埋もれながら特に子供を護ってくださる仏様。それがお地藏さまということでした。

話の筋道は今年も同じでしたが、わたしはいつになく心と体全体がふるえる程の感銘を受けました。

お釈迦様が亡くなるとそれから一年一年世の中は衰え濁り争いばかりが増え、仕舞いには末法・滅法といつてどうしてみようもない救いようのない世の中になつて仕舞うというのです。

このごろの世界の出来事は、大人たちの、物の世界は進歩して科学技術も進歩して、人間は日々進化して万物の靈長・世界の王者になるということが本当なのか。

争の渦の中。そして其の戦争も各国の先端科学技術のぶつかり合い。そのなかで、サラサラのいのちをいきいい子供。澄んだ瞳の子供たちが、なにも知らない子供たちが、焼かれ殺され、飢えにさらされている。

わたしはいつもと同じお説教でありました。が、なにかさせました恐ろしさをおぼえて身震いいたしました。

この世は進化か退化か。

それからどうする

中国にこんな伝説がありました。

仙人——厳しい修行を積んで一定の域に達し「不老長寿」になることができる人——が危ない木の上で瞑想修行をしておりました。その木の下をたまたま通りかかった若いお坊さんが、足を止めて不思議そうにその仙人を見上げて申しました。

「あなたたいへん、そんなところで何をなさっているのですか」

仙人は、胸を張って答えました。

「いまやつてこの修行が完成したら、私はあと三十年生きられるのじゃ」

すると、坊さんはますます不思議そうに問いました。

「あと三十年生きて、それから、どうなるのですか」

「それから、どうなるのですか」

三十年長生きしても、百年いのちが伸びていい日でも長生きしたい。一日でも若く健康でいたい。一日でも楽しく暮らしたい。それはもつともです。

だが、長生きして、それでどうするのですか。健康を願つて、それからどうするのですか。

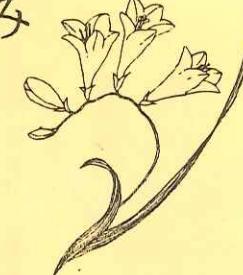
お念仏は、如来さまの永遠のいのち「無量寿」に生き返らせていただく道です。

如来さまに、出会いに生まれてきたこのいのちを大切に生きましょう。

如来さまのいのちのなかのこの一日一日を、いねいに生きましょう。

南無阿弥陀仏のいのちに撮(おさ)め取られて生きるこの今日の命に、かしづく思いで、健康には気をつけたいものです。

九月のことよみ



- 1、布施(おおきな施しの中に生かされていられる私は、それにふさわしい生き方をしているだろうか)
- 2、持戒(つねにみずから反省し戒めているか)
- 3、忍辱ニンニク(自己中心的な自己主張を慎もう)
- 4、精進(如來の願力精進のなかにある念仏者の努力を)
- 5、禪定(なにものにも揺らぐことのない如來の仮地にこころを樹てくらそう)
- 6、智慧(なにが本物かを見据えたくらしを)

九月一~十一二日

午後二時 法要

△口同役員△云
午後四時半より

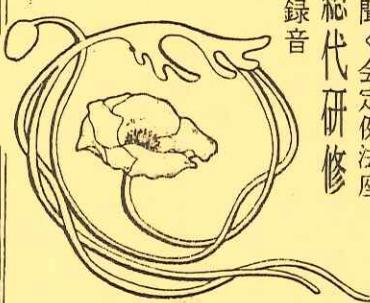
総代・仏事役員・法輪会世
話人で行事運営につき協議

お念仏は、如来さまの永遠のいのち「無量寿」に生き返らせていただく道です。

如来さまに、出会いに生まれてきたこのいのちを大切に生きましょう。

如来さまのいのちのなかのこの一日一日を、いねいに生きましょう。

南無阿弥陀仏のいのちに撮(おさ)め取られて生きるこの今日の命に、かしづく思いで、健康には気をつけたいものです。

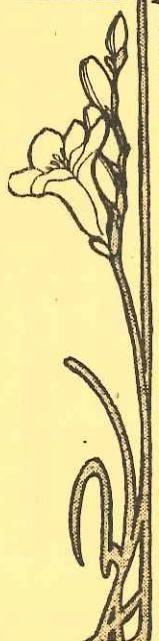


出石組御同朋総社結集大會に寄せて
自家用車のガレージのつもりで設置した片屋根の建物であったが、年期もたち手狭になつたので建て替えることにした。そこから出る廃材。むざむざと捨てるのも勿体なくて、家の裏の川っぷちに骨組みだけのものを建てた。ハウスのつもり。

そこに先ず、春に花が咲くものと思い、藤の苗を三種類植えてみた。その藤が、翌年の春を待つてそれぞれに花をつけそれで結構春を楽しんだ。それで少し欲も出て、秋には何かないかと考え、山からアケビを移し植えることを思いついた。しかし、山のものを野に移すなんてそう簡単に出来るものではない。それぞれに地味の事情も違い日照の程度も違う。同じ種類のものでもそれぞれに個性もあるようだ。十本程持ち帰ったがようやく3~4本が定着した。それが今ではなんとモウイワと云うほど実をつけている。

三番目には、ごく普通のブドウをそのハウスの片隅に控えめに植えてみた。初めのころにはスクスクと育つよう見えたのだが、こちらが最初から見くびったのがいけなかつたのだろう。ツルの末端の方が枯れてきた。申し訳ない気持ちで今度は丁寧に強そなところだけ片側に伸ばしてみたら、なんと今、五つ六房わたしの願いをかなえてくれた。作る側の「おもし」の反映ということがあるものだと感じた。

四番めには朝顔だ。同じ棚に這い上らせたのに、人を押しのけてでも自分を咲かそうと元気なものもあるが、反面、いかにも遠慮がちに花もよう咲かさないものもある。それが良い悪いとはいえないそれが現実なのだと思う。



五番目に今年のヘチマだ。二本つくつて同じ棚に上るようにしてみた。いまのところ、うちの一本に一個だけ格別大きなのがぶら下がっている。

来年八月わたしたちの出石組も「御同朋総結集大会」を迎える。

そのぞの寺が、仏社・仏婦や総代会などの組織が、反省点検の中から新しい方向を見出そうと云うのだ。

みんな一列横並びに歩調をそろえて進もうといふのはいけない。

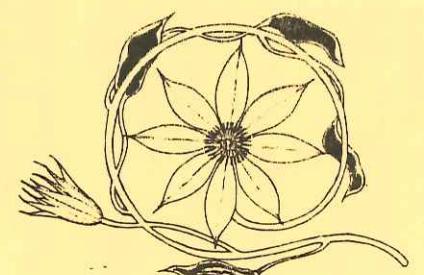
みんな違つてみんないい
みんな違つてみんないい。

ただ、「かわろう」「のびよう」と願う念力。願力を持って、御同朋御同行が集いあえたら、それぞれの花花が咲き、すばらしい実を結ぶのではないか。ぜひ、そのようにしたいものです。



こども・仏婦研修会

ありがとう



◆おともだちから
◇お寺のこども会はおもしろかったです。カレーもおいしかったです。たんけんで1位になりました。来年もよろしくお願ひします。
（市場 大石達也）

◇お寺のこども会はおもしろかったです。カレーもおいしかったです。たんけんで1位になりました。来年もよろしくお願ひします。
（市場 大石達也）

◇お寺のこども会はおもしろかったです。カレーもおいしかったです。たんけんで1位になりました。来年もよろしくお願ひします。
（市場 大石達也）

◇出石のお寺でこどもけんしゅうかいにきました。みんなでゲームをしたり、じゅずのもちかたやしきょうこうのしかたを教えてもらいました。おひるには、おばちゃんたちがつくつてくれたカレーをたべました。おひるからビデオを見たりグループでおためししました。いろいろなことをおしゃべりしたり、工作をつくつたりしておもしろかったです。
（小谷 宮嶋桂子）

◆子供仏婦研修会に参加させて頂きありがとうございました。仏婦の地区評議員の方から誘われ、孫をつれて参加させていただきました。この孫は、親とはなれて初めて人中に出たものですから恥ずかしくて、一時は帰ろうかと思うほどでしたが、すこしずつ馴れて来て、ご院家さまのお話を聞いたり、念珠の手で合掌する姿は、とてもかわいいかったです。

す。ゲームりときも、皆さんと一緒に楽しもうしてくれて、参加させていただけてほんとうによかったと思いました。おかげ様で最後までつとめさせていただきました。ご院家様・坊守さまはじめ役員のみなさまに大変お世話になりました。ありがとうございました。
◆前略ごめん下さいませ。先日はこども会、大変お世話様でございました。今年はご丁寧にこどもの名前で案内状を頂き有り難うございました。とても喜んでその日楽しみにしておりました。毎年のことながら、お勉強・ゲーム等など、いろいろとこどもの喜ぶ行事を考えいただき、前住様・ご院家様・坊守様と、それぞれの分野でご指導していただくお会話でございました。帰宅してから兄弟二人の姿を目の前にし、大変嬉しく頭の下がる思いでございました。おがみかたのしかたがむずかしかったです。おしゃかさまの名前もおぼつかなかったです。おしゃかさまのなまえはむずかしかったです。（小谷 宮嶋桂子）

◆出石のお寺でこどもけんしゅうかいにきました。みんなでゲームをしたり、じゅずのもちかたやしきょうこうのしかたを教えてもらいました。おひるには、おばちゃんたちがつくつてくれたカレーをたべました。おひるからビデオを見たりグループでおためししました。いろいろなことをおしゃべりしたり、工作をつくつたりしておもしろかったです。（小谷 宮嶋桂子）

◆子供仏婦研修会に参加させて頂きありがとうございました。仏婦の地区評議員の方から誘われ、孫をつれて参加させていただきました。この孫は、親とはなれて初めて人中に出たものですから恥ずかしくて、一時は帰ろうかと思うほどでしたが、すこしずつ馴れて来て、ご院家さまのお話を聞いたり、念珠の手で合掌する姿は、とてもかわいいかったです。（市場 大石正代）

